



「美の滋賀」について
Meets/無事の文化/提案

上田洋平

滋賀県立大学地域共生センター 助教
地域の元気創造・暮らしアート事業選考会議専門評価員

「美の滋賀」で目指す姿

(平成24年「美の滋賀」発信懇話会提言)

➤ 深みのある日常に心の安らぎや豊かさを覚えながら県民が楽しく元気に暮らしている

すこやかに

➤ 多様な営みの中で、人や地域のつながりを県民が実感している

ともに

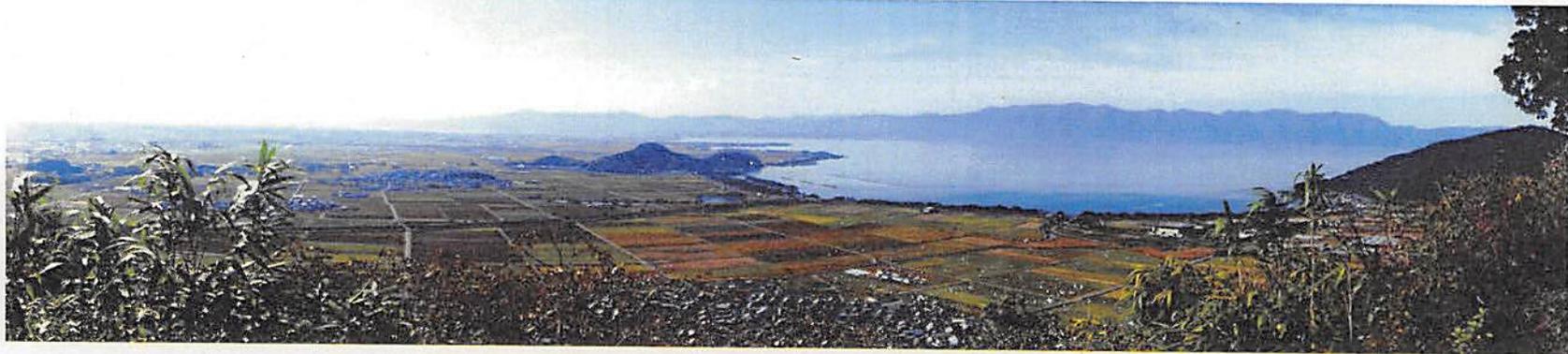
➤ そうした滋賀の新しい暮らしぶりを県外の人がうらやましく思う

胸をはって

Meets

(出逢い・交わり・イノベーション)

滋賀は歴史・地政学上、人・モノ・情報が出逢い、
混じり合い、イノベーション(新結合)を通じて新
しい価値を生み出すような、様々な「Meets」を促
す舞台である。



さだめなき世にや惜しまむ今日別れ明日はあふみの別れなりとも(花山院師兼)
今日別れ明日はあふみと思へども夜やふけぬらむ袖の露けき (紀利貞)

あふみ=淡海=逢う身

美の待ち合わせ場所

(滋賀のアートマップ「美の滋賀マンダラ」)

美しいものが生まれる時またその場所にあっては「美」を生む出会い自体がすでに美しい。美とは「出会い(meets)の別名である。

例えば琵琶湖。さざ波たつ水面が空を映して刻々と色を変えてゆく。光と風と水の出会いが織りなす「自然の美」。

里山・棚田の景観や、風土に根差した産業は自然のめぐみと人の暮らしの出会いが育む「営みの美」と言えるでしょう。

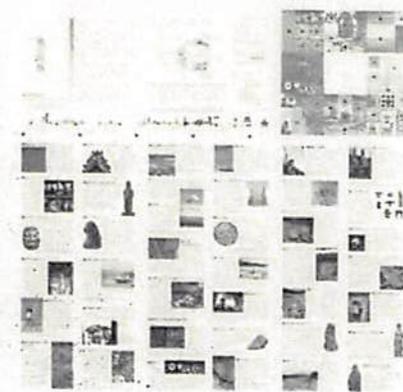
いにしへの遺跡や文物、色とりどりの祭りと行事は個人の心を語り伝える有形無形の「歴史の美」。地元で守り祀られてきた神や仏は、人々の祈りに磨かれて「千年の美」をたたえています。

そうした歴史や伝統に挑み、あらたに息を吹き込んで、あるいはその殻を破って生まれた近代の「百年の美」の実り。

さらに今、人々のいのちの軌跡の造形が「生の芸術(アール・ブリュット)」という名前と出会い、あらたな美として世にその光を放ちつつある。

自然と歴史と人の営みの、千年・百年・現在の、様々な「美」が、この滋賀で出会って、そして同居している。ここはまさに「出会いという美」の宝庫です。

「美の滋賀」とはだから、そんな数多の美しいモノ美しいコト、想いやカタチが一堂に会する舞台、時空を超えた「美の待ち合わせ場所」のことかもしれません。

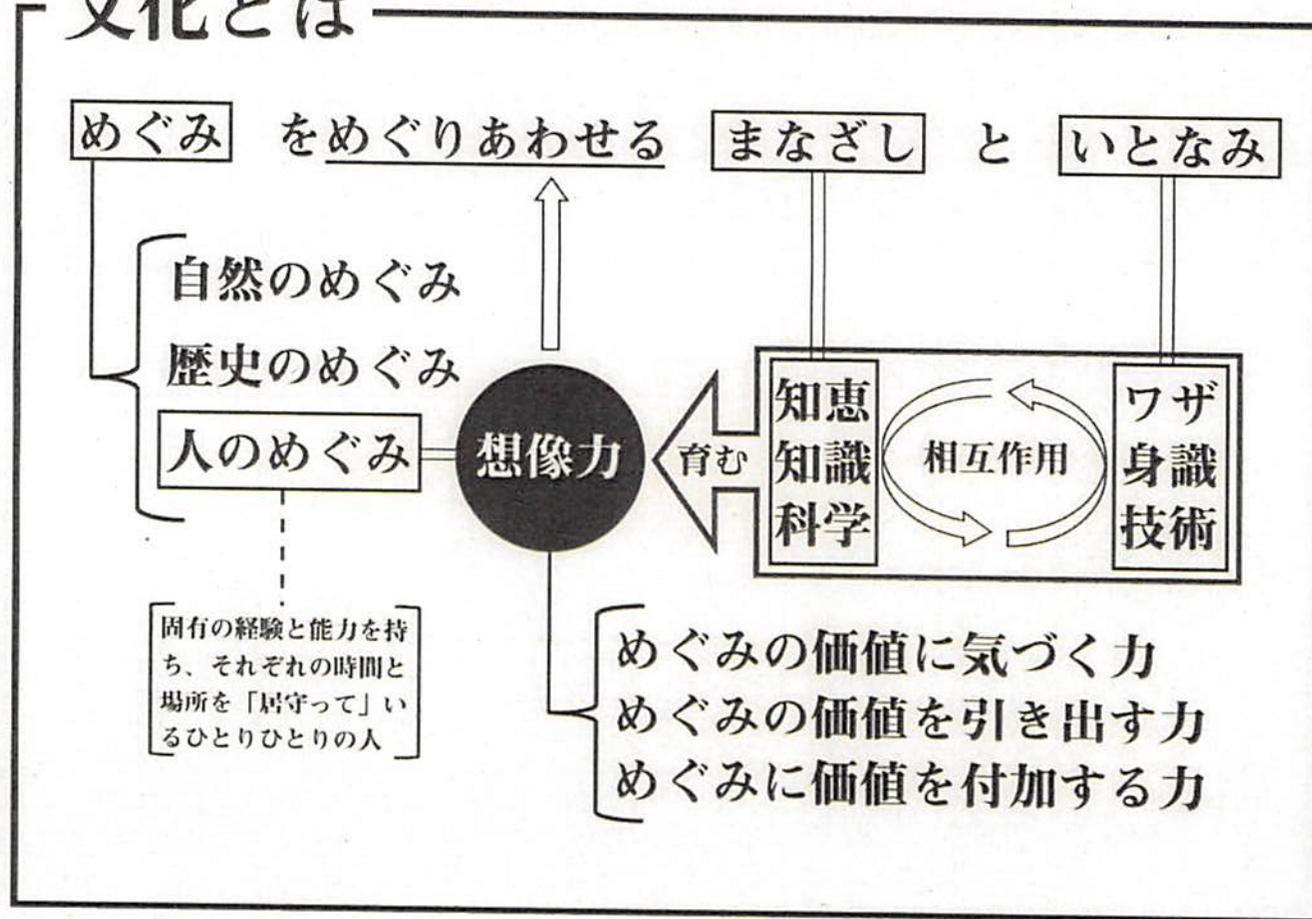


美の滋賀の全体像について「meets」をコンセプトとして制作したアートマップ「美の滋賀マンダラ」(2013年)。様々な事物が時空を超えて響き合い、共存する様を直観的に表現することを目指した。

文化はめぐみのめぐりあわせ

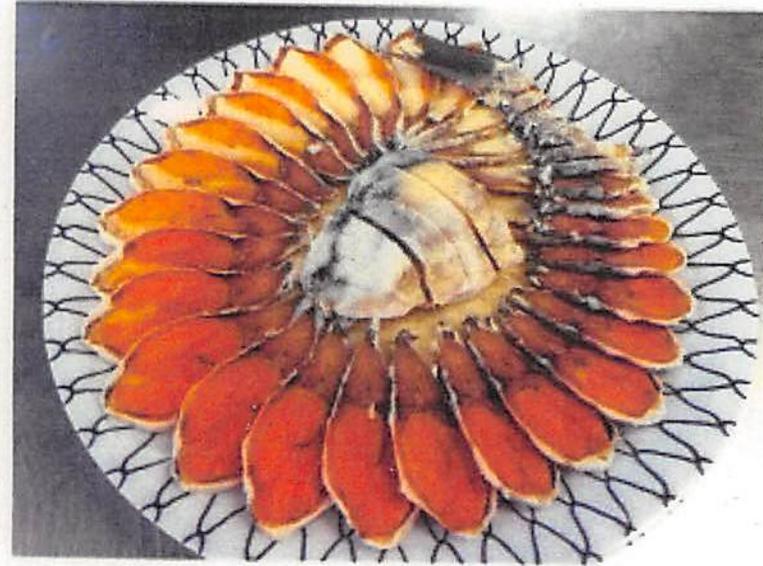
地域の文化は「めぐみのめぐりあわせ(イノベーション)」であり、また、「めぐみをめぐりあわせるまなざし(知識・価値観)といたなみ(わざ・技術)」である。まなざしといたなみは互いにひびきあう。

文化とは



豊かな自然があるだけではいけない。歴史があるだけでもいけない。新しい文化は「人のめぐみ」の豊かさの中で芽生える。
 多様な人々と、生きもの、自然が「居合わせ」る場と、そこではじまるお互いの「仕合わせ」から創造される。

文化は「めぐみのめぐりあわせ」



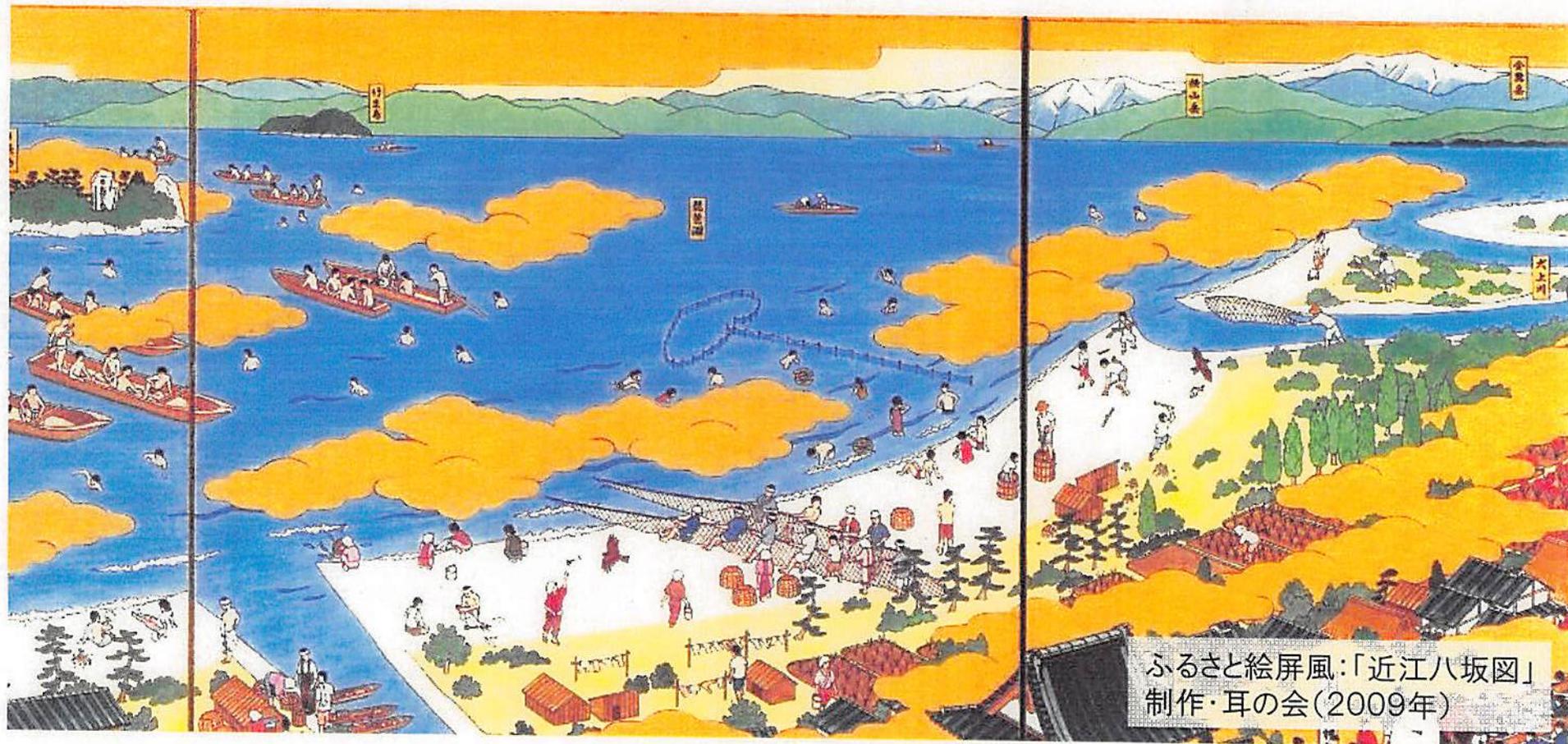
自然のめぐみ	鮎・塩・米・水・菌…等	} 桶 (場)
人のめぐみ	想像力・観察眼・知恵・技…等	
時間のめぐみ	熟成・発酵期間	

良い村が美しくなる

(柳田國男)

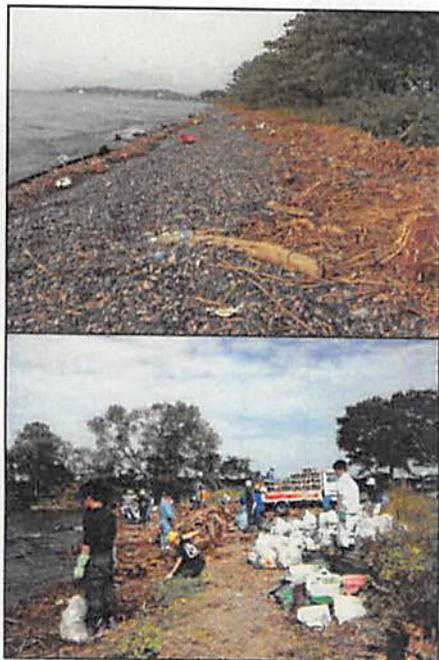
村を美しくする計画などというものは、有り得ないので、あるいは良い村が自然に美しく
なっていくのではない
かとも思われる。

(柳田国男『柳田国男全集』2「豆の葉と太陽」1989、筑摩書房より引用)



- 琵琶湖の浜は炊事場、洗濯場、水汲場、漁場、遊び場、はたけ、そして燃料供給地。
- あらゆる場面で地域の自然、琵琶湖や琵琶湖めぐみとつながりかわることによって成り立ってきた「一所懸命」な地域の暮らし。
- かかわりの豊かさは風景の豊かさ、美しさとつながる。
- 我らの時代のかかわりをいま、結びなおそう、再生しよう。

「住ム」ハ「澄ム」ナリ



↑ 平成24年。台風一過。

10月14日 ボランティア募集

これも災害支援
身近な事から、やってみよう！

**びわ湖。流木
清掃活動**

連日の大雨で山間から
流された流木が湖岸を
埋めています

本日はボランティア募集です。清掃活動を行います。ご参加ください。お申し込みは、電話またはメールでお申し込みください。

連絡先：ササノ会館 10階 電話 090-1878-7920

約
50
年
前



↑ 昭和34年、伊勢湾台風翌日。びわ湖の「焚きもん」獲得競争



「大橋宇三郎コレクション」琵琶湖博物館所蔵

流れてくる木は変わったか？ 台風は、自然は変わったか？

暮らしが変わるとかかわりが変わる。かかわりが変わると、まなざしが変わる。その結果、かつてのめぐみがいまはゴミ。

ゴミを排除し、美化することも大切だけれど、我らの暮らしと切り離されて、くらしのいとなみ、その文脈から切り離されて、いわば「無縁」になってしまって、浮かばれないからゴミなのならば、

もう一度、くらしのいとなみ、その文脈に位置づけ織り込んで、新しいつながり、縁をとりもどしたら、もういちど、ゴミはめぐみになるだろう。

農村	都市
大量の「流木ゴミ」、困った！	「薪ストーブの燃料」、欲しい！

異なるまなざしを持った者同士のイノベーション（新結合）によって課題が解決することがある

地域・社会の目的(ねがい)

地域・社会の目的(ねがい)は、有限の環境、資源を
わかちあいながら、みんなが、

ここで、ともに、無事に、
生きていくこと。

「わたしのムラにはなーんにもない」と人びとは言う。

だが本当に「なーんにもない」か？

自然のめぐみ、歴史のめぐみ、人のめぐみをめぐりあわせて

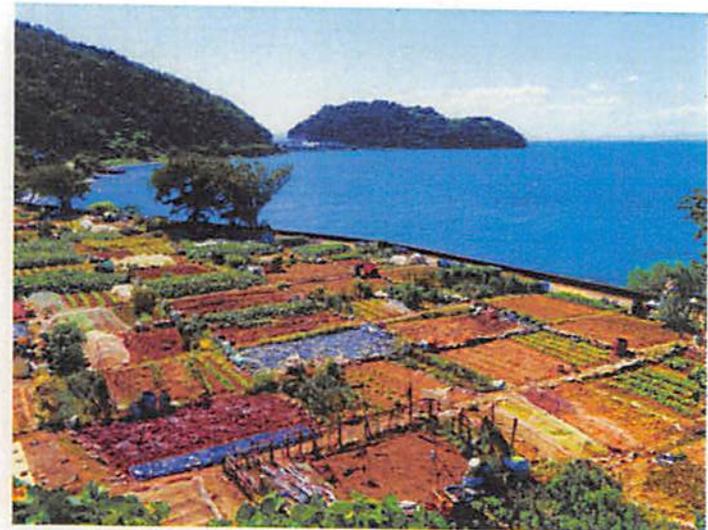
「なーんにもない」を百年、千年、ずっと続けてきた力

そのころざし、知恵とワザとがあるだろう

「無事の文化」がある

「なーんにもない」と言いながら

とにもかくにも生き延びてきた「100年、1000年居る術」がある



近江は「無事の文化」の宝庫

- 近江では、内外の変化の波を受け止め、歴史に鍛えられながら、人と自然、人と人とが共生しつつ持続的に、無事に生き延びていくための仕組みや仕掛け、そして思想が育まれてきた。
- われわれは普段無意識裡の呼吸と血液循環によって生きている。呼吸と血液循環の無意識裡のはたらきをつかさどるのが自律神経である。呼吸も血の巡りも、まさに「息をするように」自然に、意識されることなく遂行されなければならない。近江の暮らし、歴史、文化をみるとき、この自律神経のはたらきということが、おのずと頭に浮かんでくる。
- 普段は意識されぬが、生きるということのために欠かせないもの・こと。事も無くそこにあるもの、事も無くそこで行われる出来事の、その事も無げなありようの持続のなかに、近江の暮らしと文化の神髄があるのではないか。
- 「無事の暮らしと文化」こそ近江の本質なのではないか。

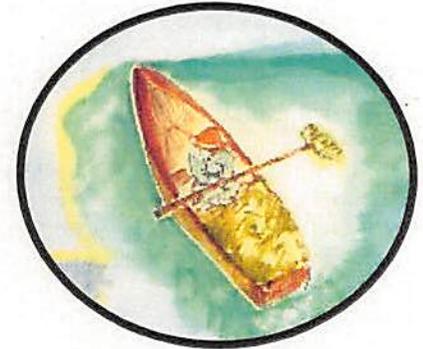
グローバルなビジネスとローカルなビジネス!?

<h2>無事の経済</h2> <p>(BUJINESS: ブジネス)</p>	<h2>有事の経済</h2> <p>(BUSINESS: ビジネス)</p>
<p>定常・成熟 Share (わかちあい) 事もなくやる あたりまえさ かわらなさ くらしことば 1000年尺度 つなげる ：</p>	<p>拡大・成長 Share (ひとりじめ) 事をおこす めずらしさ あたらしさ 宣伝・美辞 (ビジ) 麗句 コンマ1秒尺度 わける ：</p>

活用例: **ブ**ジネスモデル、**ブ**ジネスチャンス、コミュニティ・**ブ**ジネス、**ブ**ジネスマン!

近江一山・里・湖の「ビジネスモデル」

からだ【住むは澄む知恵】人と自然のつながり：里湖・里山
自然の循環に即し、内湖やカバタ等に確認される繊細かつ高度な循環システムを成立させた。それは一つひとつの集落や人々の手に負える、責任の持てる小さなシステムであった。そうしたシステムに支えられた暮らしは、例えば「魚のゆりかご水田」という言葉に表されるように、人間の介入が自然に対してただ負荷をのみ与えるというようなものではなく、むしろ人の営みを他の生きものたちも活用し享受するような関係も育んだ。



こころ【水社会】人と人のつながり：人里・村落

稲作用水の分配をめぐる権力関係や人間関係によって形成された社会。相互監視と相互協力、「いさかい」と「たすけあい」の矛盾的合一（おりあい）が暗黙裡に成り立っているような、非常に練り上げられた粘り強い社会。「先祖が世話になっただろう、子孫が世話になるかも知れぬ」と恨みも感謝も百年尺度の「お互い様」で「お蔭様」の社会。

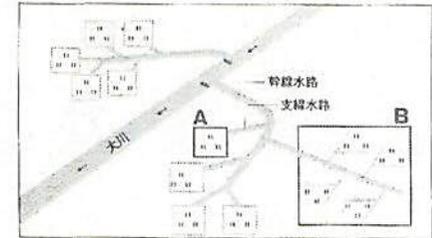


図16 粟屋の水利用

たましい【守りをする】歴史・時間とのつながり：山里

自然のめぐみは個人の所有というよりも、過去未来から貸与されたもの、先祖や子孫からの預かり物であり、それをたまたま現在に生きる者が「守り」しているのだという精神。個々の人間の命を越えて生きる森の木々と対峙することで、また、それら具体的な木々の存在を介して、人々は過去未来、続きゆく時間とつながっている。実は山里だけではない、「守り」の世界。「山の守り」「田んぼの守り」「道の守り」「川の守り」「家の守り」「宮さんの守り」「寺の守り」「フナズシの桶の守り」「子守り」はたまた「琵琶湖の守り」から「命の守り」まで。

母なる湖・琵琶湖
—あずかっているのは、滋賀県です。



課題認識

(平成24年「美の滋賀」発信懇話会提言)

現状は、**県民自身が滋賀の良さに気づいていない**。…滋賀の優れた資源の魅力が**効果的に発信・活用されておらず**、県民が日常の生活で感じている満足感ほど**県外からは評価されていない**ため、**県のブランド向上につながっていない**ようだ。

暮らしの中で**本当に大切にしなければならないものは何か**。今、根本から**問い直し**が求められている。「美」を通じて、**そうした問い直しができる滋賀をつくっていく**ことが、大事なのではないか。

県民や関係者と**ともに「美の滋賀」の土壌をつくり、活動を活発化させる**

人材の育成・発掘

25:10

- 「美の滋賀」を案内・普及する人材を育成・発掘し、「美の滋賀ナビゲーター(仮)」等として認定・登録する。
- 県内大学・研究機関と美術館・博物館との連携による人材育成プログラムの開発・実行。環びわ湖大学・地域コンソーシアム等も活用し、フィールドワークを含むプログラムを設置したり、大学の社会人向け生涯学習プログラムを活用するなど。(例:滋賀県立大学「近江の美」)。
- 既存の人材や各種人材育成制度(観光ボランティア養成講座等)の活用と活性化。国体やオリ・パラを念頭に置き、歴史・文化観光の観点だけでなく多言語対応や健康・福祉等も含むトータルな「美の滋賀」的観点からのおもてなし人材としての再教育。(例:美の滋賀語り部マイスター養成事業)

「美の滋賀」現地拠点の設置と再生

- 県内に点在する施設について、美の滋賀の理念を踏まえた基準や条件にもとづいて「美の滋賀フィールドステーション(仮)」として認定または選定(例:子供の110番の家)するとともに、それをネットワーク化させるため、ガイドブックなどに掲載、「美の滋賀パスポート(仮)」等と連動させて来訪者を誘導する等。
- 県内で地域や志ある個人の発意により設置・運営されてきた私設博物館や資料館等が、設立者の高齢化や死亡等により廃絶したりその危機に瀕している(例:ヨシ博物館)。地域博物館とも呼べるこのような施設の存在や、地域が編纂する字誌が群を抜いて多いことなどは滋賀の大きな特徴であり、資源でもある。こうした施設のフォローや活性化を推進する。(例:滋賀県立大学市川教授の指導による、学生を主体した地域博物館再生のための「地域博物館プロジェクト」)

「美の滋賀」の発信・その他

発信

- Web上に「美の滋賀」ポータルサイトを設置する。
- ITを活用した参加型のコンテストなどを引き続き実施する(例:滋賀のええフォトコンテストと「滋賀のええトコカレンダー」のコラボ)
- 「ここ滋賀」を活用したキャンペーン

その他

- 小学校等でのアーティスト滞在型ワークショップ(例:学校にアートがやってきた事業。沖島では学校とアーティストとの関係が継続しており現在も授業等にかかわっている)。
- びわいちとの連携・・・

あらたな取り組みにも増して、すでに取り組み実績のある事業を大事に育てながら、人材と拠点の発掘・整備・活性化、ネットワーク化に取り組む。集落レベルで存在する「生活の美」「無事の文化」の再評価と発信、編集力が重要。

「美の滋賀語り部マイスター」養成講座チラシ

「美の滋賀語り部マイスター」養成講座 (4回開催)

美の滋賀 語り部マイ★スター になろう!

暮らしや文化、歴史が育んできた、地域に根付いた美しさ。そんな「滋賀の美しさ」には、何気ないけれど深い魅力があります。そんな美しさをもう一步踏み込んで感じ、滋賀県各地を訪れる人へ伝える力を、職者の日職や現地視察を通して学び、育みましょう!

参加費無料・継続参加でなくとも参加可能です(※「マイスター」認定には全4回中3回以上の参加を条件とします)
★こんな方のお役に立ちます
 各地から来られる来訪者をお迎えすることがある方、地元でイベントを開催する機会がある方、地元案内をお手伝いされる機会がある方、とにかく滋賀が好きなお方、もうちょっと滋賀を深く知りたい方

第4回 時が紡ぐ、文化の美を知ろう! 2月9日(日) 13時10分~16時10分

内容: 「水のきらめき—水辺の文化的景観」
 大沼 芳幸 氏 (滋賀県立安土城考古博物館 副館長)

会場: 海津 中小路集会所 和心 (なごみ) 住所: 高島市マキノ町海津 2336

公共交通機関: JR 湖西線マキノ駅から徒歩 15分程度 (12:50 着の電車で合わせ送迎対応いたします※要事前申告)

自家用車: 駐車場あり(案内図上「P」の場所)

雨天候によっては、路面に散水がある場合がございます。ブーツ・レインシューズ等の準備をお願いします

懇話会の終了後、海津「湖川庵」にて懇話会を行います(参加費各自)。ご参加ご希望の方はお申込みください



第4回の案内

水辺には多くの魅力があります。水辺の景色、湖岸から見る風景、食文化。多様な要素が詰まった海津において、重要文化的景観に選定された「高島市海津-西浜-知内の水辺景観」を題材に、水辺景観の魅力を読み解き、景観保全の取組みポイントなどについて学びましょう。



申し込み問い合わせ: NPO 法人環人ネット 〒521-1101 彦根市石寺町 1263 番地
 事業担当: 北井香 TEL 075-708-8061 (NPO 木野環境内) Mail: oubo@kino-eco.or.jp



主催: 特定非営利活動法人コミュニティ・アーキテクトネットワーク (略称: 環人ネット)
 協力: 新江州 (株) M・O・H 建設

2015、2016年度「美の滋賀」地域づくりモデル事業採択
 実施主体: 特定非営利活動法人コミュニティ・アーキテクトネットワーク

滋賀県立大学地域基礎科目「近江の美」シラバス

講義名	近江の美
講義コード	1170200
講義名(英文)	Aesthetic view from the coast of life Omi Lake Biwa
担当教員	印刷 比呂志
単位数	2
ナンバリング番号	102BAS110

授業種別	講義	
授業概要	近江の美と名づけられた当科目は、必ずしも洒落た芸術やデザインを追い求めるのではなく、日常見られる生活の中で刻まれた「美」を掘り起こすようなまなざしを養うことを重視する。特に、近江には、古来より琵琶湖とその山々に囲まれた豊かな自然とその恵みを活用した美術工芸が根付き、多くの職人が近江に集い、自身の技を磨いてきた。こうした営みから編み出された「美」、作品を通じて湧き上がる「感性」がどのように醸成されてきたかを振り返り、さらに最前線で活躍する職人、デザイナー、アーティストなどによるゲスト講師を通じて学び、	
授業計画	回数	タイトル 概要
	第1回	ガイダンス 「近江の美」を通じて得られるものとは何かを考える。
	第2回	伝統と生活 湖国の暮らしの風景や自然に見られる日常の美について考える。
	第3回	感性からの風景おこし 職人による工芸や、祭事における美しさについて考える。
	第4回	地域ブランド 地域産業、お土産、観光などの地域資源を考える。
	第5回	近江の職人と生活 本郷の里、米原市上丹生の仏壇職人を招聘してお話を聞く。
	第6回	近江の音 木之本町の伝統である琴線づくりから見る近江の音づくりを考える。
	第7回	近江の土と火の文化 信楽焼の職人、陶芸作家を招聘してお話を聞く。
	第8回	近江の酒文化 米と水と匠の世界を考える。近江の蔵元から杜氏さんを招聘してお話を聞く。
	第9回	近江の芸術への取り組み 人と芸術、アールブリュットについて考える。
	第10回	近江の織物 綿、絹、麻の文化と、和装について考える。
	第11回	近江の風景 写真家の眼差しによって切り取られた近江の生活、風景について考える。
	第12回	近江の七織 産物の伝統産業である仏壇づくりについて、七曲の仏壇職人を招聘してお話を聞く。
	第13回	近江のレジャー グリーンツーリズムと自然資源について考える。
	第14回	近江の観光 インバウンドと歴史遺産について考える。
	第15回	講義の総括 近江の地域資源について美的価値について総括する。
到達目標	滋賀県で培われてきた伝統工芸、伝統的建築、祭事にはじまり、独自の産業として培われてきたファッション産業、地域ブランド、さらにはそうした観光資源を活用したツーリズムなどの事例を知り、本学が所在する滋賀県内で日常的に垣間見えるさまざまな「美」を整理できる。また、感性を磨いた美の要素が何であったのか表現(レポートやプレゼンテーション)でき、そこで得られた経験から、滋賀に埋もれた「美」の再認識、自分自身の「美のまなざし」を育み、そうした視点を、第三者に伝えることを到達目標とする。	

「近江の美と名づけられた当科目は、必ずしも洒落た芸術やデザインを追い求めるのではなく、日常見られる生活の中で刻まれた「美」を掘り起こすようなまなざしを養うことを重視する。特に、近江には、古来より琵琶湖とその山々に囲まれた豊かな自然とその恵みを活用した美術工芸が根付き、多くの職人が近江に集い、自身の技を磨いてきた。こうした営みから編み出された「美」、作品を通じて湧き上がる「感性」がどのように醸成されてきたかを振り返り、さらに最前線で活躍する職人、デザイナー、アーティストなどによるゲスト講師を通じて学び、

整理番号:
チーム名: スチューデント・キュレーターズ
プロジェクト名: 地域博物館プロジェクト
代表者氏名(所属): 渡邊 文乃(人間文化学部 地域文化学科)



民具や古文書、お祭りなど、地域には多くの文化財がある。“地域文化財”や地域の歴史・文化などを住民の方々とともに調べ、“地域博物館”をつくりあげていくことで地域の魅力の再発見をお手伝いする。

地域博物館プロジェクト

地域に眠る“地域文化財”を活用し、紹介したいという地域住民の思い



地域博物館づくりという形で地域の魅力の再発見、外部への発信など、地域の活性化のお手伝いをする

ポイント

- ①複数の地域で活動することで「地域博物館」という手法をモデル化する
- ②綿密なインプットによってアウトプットにつなげる
- ③10年、20年先の将来を見据えた活動

活動地域

白谷荘歴史民俗博物館 (高島市マキノ町白谷)
 旧甲津原分校 (米原市甲津原奥伊吹)
 下之郷史跡公園 (守山市下之郷)
 ビバシティ彦根 (彦根市竹ヶ鼻町)
 西川嘉右衛門家他 (近江八幡市円山)
 滋賀県立大学 (彦根市八坂町)

白谷荘歴史民俗博物館 教科書の分類、リーフレット作り、展示替え



旧甲津原分校 民具調査、聞き取り調査、展示



下之郷史跡公園 市民主催イベント手伝い、下之郷遺跡まつりへの参加、民具調査復活



ビバシティ彦根 博物館夏祭りへの参加



西川嘉右衛門家他 民具調査

滋賀県立大学

大学内での映像放映、映像放映に合わせた解説、放映会の広報、リーフレット作成



滋賀のええトコ2015カレンダー

- SHIGATOCO CALENDAR -

2013年。滋賀のアートマップ「美の滋賀マンダラ」の制作と連動して、県内外の人々に呼び掛けて滋賀の風景とそれにまつわるエピソードを募集する「滋賀のええフォト☆コンテスト」を開催、Web投票により選ばれた写真を使用してカレンダーを作成した。